

自由集会

■ 5月30日 (水) ————— 第2会場 (4号館1階 白鳥ホール北)

第12回職業性ストレス調査票ユーザーズクラブ …………… 18:00～19:30

テーマ：各調査票の最新動向

話題提供者：

話題1 新職業性ストレス簡易調査票について

小田切優子 (東京医科大学)

川上 憲人 (東京大学大学院)

話題2 ワーク・エンゲイジメント、リカバリー経験について

島津 明人 (東京大学大学院)

話題3 組織的公正の研究動向について

組織的公正と心理的ストレス反応との関連における主観的な job insecurity の緩衝効果など

井上 彰臣 (産業医科大学)

話題4 職場のいじめ・ハラスメントの研究動向について

含：厚生労働省の職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議のワーキンググループについての動向

津野香奈美 (東京大学大学院)

話題5 努力—報酬不均衡モデル調査票 (短縮版) について

カットオフポイントのキャリアレーション

堤 明純 (北里大学)

世話人：堤 明純 (北里大学)

小田切優子 (東京医科大学)

小林 章雄 (愛知医科大学)

原谷 隆史 ((独) 労働安全衛生総合研究所)

川上 憲人 (東京大学大学院)

職域における喫煙対策研究会…………… 18:00～19:30

テーマ：労働安全衛生法改正—受動喫煙対策の課題を明らかにしよう！

座長：阿部 眞弓（職域における喫煙対策研究会 代表世話人）

大和 浩（職域における喫煙対策研究会 世話人）

演者：

【開会の辞】

本日の自由集会の意義について

阿部 眞弓（職域における喫煙対策研究会 代表世話人）

【講演】 受動喫煙対策にかかわる労働安全衛生法改正の動きと課題について

大和 浩（産業医科大学 産業生態科学研究所 健康開発科学研究室）

【ディスカッション】

可能な限り、フロアの皆様と活発な議論を持ちたいと思います。積極的にご発言ください。なお、恐縮ですが、できるだけ多くの方のご意見を承りたく、お一人当たり2分以内でご発言いただきますよう、よろしくお願い致します。

【まとめ】

※なお、本自由集会の結論は、6月2日（土）9：00～11：30開催の学会シンポジウム「労働安全衛生法改正に伴う職場の喫煙対策」にて、各分野の専門家を交えさらに話し合われます。

世話人：清水 良恵、山畑 敦子、利根川豊子、尾崎 哲則、大和 浩、大神 明、
埴岡 隆、中村 正和、山口 直人、阿部 眞弓

健康教育・ヘルスプロモーション研究会…………… 18:00～19:30

テーマ：働き盛り世代におけるヘルスリテラシー II

座長：福田 洋（順天堂大学医学部総合診療科 准教授）

講師：

ヘルスリテラシーの最近の動向

杉森 裕樹（大東文化大学スポーツ・健康科学部 教授）

ヘルスリテラシーの職域での活用

石川ひろの（東京大学大学院医学系研究科 准教授）

「健康面での適切な意思決定に必要な、基本的健康情報やサービスを調べ、得、理解し、効果的に利用する個人的能力（米国NIH,2000）」とされるヘルスリテラシーが注目を集めています。従業員の健康の自己管理能力を高める施策を推進してきた日本の企業は多いと思われ、職域における働き盛り世代の健康教育・ヘルスプロモーションのgoalや指標として非常に有用と考えています。今年はさらに一歩進めて、ミニレクチャー2題にて具体的な指標の活用について理解を深めたいと思います。昨年に引き続き、杉森裕樹先生からは最近の動向について、石川ひろの先生からは具体的な尺度・指標の活用や注意点、例えば健診の間診での活用の可能性などについてご講演頂く予定です。多数のご参加をお待ちしております。

世話人：福田 洋（順天堂大学医学部総合診療科 准教授）

インジウム研究グループ..... 18:00～19:30

テーマ：第5回インジウムの健康影響に関する情報交換会

発表者：

- 1 インジウムの健康影響研究の概要
 大前 和幸（慶應義塾大学医学部）
- 2 生物学的モニタリングとしての毛髪の有効性
 平田美由紀（九州大学医学研究院）
- 3 インジウム作業者のコホート研究、国内外の症例
 中野真規子（慶應義塾大学医学部）
- 4 インジウム取扱い工場における作業環境調査結果
 宮内 博幸（産業保健協会研究開発部）
- 5 製造現場の環境改善の取り組み
 池田 典興（三井金属鉱業株式会社）
- 6 インジウム化合物に関する規制の検討状況
 松井孝之（厚生労働省化学物質評価室）

平成22年12月に厚生労働省より「インジウム・スズ酸化物等取扱い作業による健康障害防止対策の徹底について」の通達が出され、現在、インジウムの法規制に向けて作業が進められています。今回、大学研究者、厚生労働省担当官、インジウム取扱い事業所担当者の参集により意見交換を行います。

世話人：田中 昭代（九州大学医学研究院環境医学分野）

平田美由紀（九州大学医学研究院環境医学分野）

動機づけ面接研究グループ	18:00～19:30
---------------------------	--------------------

テーマ：動機づけ面接（Motivational interviewing）は、患者へ変化を促す面接のスタイルです。問題飲酒の介入法として開発され、受容と傾聴では限界のあった、反抗的かつ抵抗の強い人たちに効果的であることから、保護観察官など司法の分野で広がりました。現在は、様々な依存症、禁煙、糖尿病、肥満、心疾患、服薬アドヒアランス、HIV/AIDS予防などでエビデンスが蓄積され、医療保健福祉さらに教育の分野でも活用されています。

講師：磯村 毅（動機づけ面接トレーナー：予防医療研究所）

内容紹介：

動機づけ面接の雰囲気を体感していただくことが学習の大きなはずみになります。今回のワークショップでは、多数のファシリテーターの協力を得て演習を行い、皆さんに動機づけ面接の風を感じていただければと思います。

ファシリテーター：高山 重光（管工業健保健康管理センター産業医）

永島登茂美（日生協健保保健師）

鬼澤 重光（東京女子医大青山病院禁煙外来）

久保田聡美（近森病院看護部）

倉本 剛史（荅北クリニック）

吉見 逸郎（多摩保健所医師）

廣田 理（大阪市保健所医師）

渡邊 愛（予防医研保健師）

水村 恒雄（第三北品川病院内科）

稲垣 幸司（愛知学院大学短大部歯科医師）

放射線・原子力保健研究会	18:00～19:30
---------------------------	--------------------

テーマ：放射線災害対応の実際 デモンストレーションとディスカッション

座長：赤津 順一（浜岡原子力総合事務所 浜岡診療所）

演者：神 裕（日本原燃株式会社 げんねん診療所）

放射線災害対応の現場で必要とされるスキルやコツについて、被災者もモデルに登場してもらい、実際のデモンストレーションを行いながら会員相互の知識共有化を図る企画です。

第38回アルコール問題研究会 18:00～19:30

演 者：岡本 博照（杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室）

内 容： 今回のテーマは「消防官の健康と飲酒様態」を予定しております。市民の安全と健康に関与している職種の一つに消防官がありますが、彼らの飲酒様態やその健康との関連についてはよく知られていません。また、東日本大震災で数多くの被災者の救助にあたった消防官ほか自衛官や警察官の健康に関心が高まるだけでなく、PTSD等のメンタル不調発症と飲酒との関係も将来の課題になるものと予測されます。

職種を問わず多くの皆様と素直な討議ができればと願っております。

世話人：角田 透、大本美彌子

リスクマネジメントにもとづく健康管理シリーズ 第4回 18:00～19:30

テーマ：リスクマネジメントにもとづく健康管理シリーズ 第4回

演 者：高尾 総司（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野）
梅木 佳則（安西法律事務所）

内容紹介：

自律神経失調症で休職中に、産業医から「病気でなく甘えだ」などと言われ病状が悪化したとして、奈良県に住む40歳代の団体職員の男性が、当時の産業医に損害賠償を求めた訴訟において、元産業医に対して慰謝料等60万円の支払いが命ぜられた（平成23年10月25日大阪地裁）。

企業における健康管理は、表面的にはどうあれリスクマネジメントを基礎に持つことが求められる。この点から健康管理を整理しなおせば、健康診断事後措置も、過重労働対策も、そして、メンタル対策も、原則的に同じ考え方に添って構築できるとするのが、岡山大学産業医グループの考え方である。

本年の自由集会では、過去3年にわたって実施してきたシリーズ（健康診断事後措置、過重労働対策、メンタル対策）の第4回である。例年と同様に、安西法律事務所から労働法専門の梅木佳則弁護士（予定）にコメントをいただきながら、冒頭のケースのような産業医自身が訴えられた場合などについての意見交換も含めて、自由に討議する。

世話人：高尾 総司（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野）

第60回アレルギー・免疫毒性研究会 18:00～19:30

テーマ：職業・環境起因性気道障害の病態と咳

演 者：

特別講演1

職業・環境起因性の咳

新実 彰男 (名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学分野教授)

特別講演2

化学物質による神経原性気道炎症

坂本 龍雄 (山口大学大学院医学系研究科 環境保健医学准教授)

概 要：

職業や環境に起因する気道障害について、新実先生には内科臨床の立場から、坂本先生には主に動物実験で得た知見を中心に、最新の知見をお話しいただきます。貴重な機会ですので、関心のある方はどなたでもご自由にご参加ください。

世話人：吉田 貴彦 (旭川医科大学)

上島 通浩 (名古屋市立大学)

労働衛生国際協力研究会 第30回研究会 18:00～19:30

特別報告 激甚災害下における産業安全保健活動

「Workers and Bangkok flood crisis」

Sara Arphorn (Mahidol University)

会員活動報告

「アジアの産業保健活動から学ぶー国際協力を通じて感じたこと、成長できたことー」

石丸 知宏 (日立横浜病院 産業医) ほか

世話人 毛利 一平 (労働科学研究所)

騒音障害防止研究会…………… 18:00～19:30

座 長：井上 仁郎 (産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学)

演 者：

- 1 金属製造業におけるF-MIREとhREATによる耳栓遮音効果測定
加部 勇 (古河電気工業株式会社)
- 2 耳栓はどこまで使えるか
中村 文 (産業医科大学)
- 3 鉄鋼業における騒音障害防止対策の試み
山下真紀子 (JFEスチール株式会社)
- 4 欧米の基準に準じた、リスクに基づく騒音障害防止プログラムの実践と結果
橋本 晴男 (エクソンモービル有限会社)

第15会場 (2号館2階 会議室222・223)

第7回エイジマネジメント研究会…………… 18:00～19:30

テーマ：アクティブエイジング、そしてプロダクティブエイジングへの産業保健戦略

座 長：神代 雅晴 (エイジマネジメント研究会代表世話人)

演 者：樋口 善之 (産業医科大学産業生態科学研究所人間工学研究室学内講師)

内容紹介：

“高齢期においても元気に働くためには何が必要か”を探るため、職種の異なる8つの企業（製造、物流、設備、通信、建設、人材派遣等）の協力を得て、主に50～69歳の労働者を対象とした体力測定調査を実施し、加齢による体力水準の変化を把握した。併せて、質問紙調査を実施し、労働適応能力、生活機能、疲労様態および就労意欲についてデータを収集した。分析の結果、“高齢期においても元気に働く”ための最重要課題は「労働適応能力の保持・増進」であることなど、非常に有益な知見が数多く得られた。今回のプロジェクト研究の成果を基に、アクティブエイジング、プロダクティブエイジングを実現するための産業保健戦略について検討した結果を報告する。

（本研究は独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構平成23年度研究業務受託「エイジ・マネジメント施策に関する調査研究」によって行われた結果の一部である）

講師ご略歴：

1978年生まれ。2009年産業医科大学医学研究科単位修得後退学。2010年 博士（医学）。

労働衛生史研究会 18:00～19:30

テーマ：東海地方の現在につながる特色ある労働衛生活動の歴史

司 会：竹内 康浩 (名古屋大学)
久永 直見 (愛知教育大学)

演 者：

- 1 東海地方における戦前の工場医会の活動
久永 直見 (愛知教育大学)
- 2 瀬戸の窯業におけるじん肺等の職業病予防の取り組み
五藤 雅博 (労働衛生コンサルタント)
- 3 東海銀行における精神健康対策の歴史
寺澤 哲郎 (三菱東京UFJ銀行)
- 4 自動車製造業における人間工学技術を活用した作業負担の軽減や生産性向上の取り組み
加藤 隆康 (グッドライフデザイン (株))

世話人：堀口 俊一

中小企業安全衛生研究会 18:00～19:30

テーマ：中小企業安全衛生サポートの担い手、そしてこれからの課題

司 会：柴田 英治 (愛知医科大学)

演 者：

- 報告1 名古屋で中小企業の安全衛生に携わって -60年間の活動から見えるもの-
辻 宏夫 (辻安全サービスセンター)
- 報告2 社会保険労務士との連携による中小企業の産業保健活動活性化に向けた新たな取り組み
武藤 繁貴 (聖隷健康診断センター)
- 報告3 東北地方、震災後の中小企業安全衛生を見渡して
菅原 保 (本間病院労働衛生コンサルタント事務所)
- 第46回中小企業安全衛生研究会全国集会 (2012年12月8日・北九州) のご案内
茅嶋康太郎 (産業医科大学)

世話人：青山 京子、伊藤 昭好、井奈波良一、茅嶋康太郎、川崎 能道、熊谷 信二、
甲田 茂樹、柴田 英治、塩飽 邦憲、菅原 保、田畑 正司、寺田 勇人、
錦戸 典子、服部 真、平田 衛、広瀬 俊雄、武藤 繁貴、武藤 孝司、
森口 次郎

産業保健情報・政策研究会…………… 18:00～19:30

テーマ：産業保健におけるマネジメントと情報

座長：佐藤 裕司 (富士通株式会社健康推進本部 川崎健康推進センター長)

演者：

統合デジタル健康管理システムの必要性と可能性

森口 修逸 (株式会社エム・ピー・オー)

産業保健におけるマネジメントと情報

八幡 勝也 (住田病院副院長)

内容：

産業保健活動は、基本的には一企業内の活動として捉えられているが、「WHOによる健康の社会的決定要因」あるいは「Health Impact Assessment」といった大きな枠組みで考えると、健康の視点に立った社会全体のマネジメントの一環として産業保健を捉える必要性が生じる。今回の研究会では「統合デジタル健康管理システムの必要性と可能性」とEA (エンタープライズアーキテクチャ) という、組織の健康マネジメントにおける情報技術の役割を紹介する。

世話人：昇 淳一郎 (パナソニック ヘルスケア株式会社松山地区健康管理室)

会議室2 (4号館3階 会議室436)

産業神経・行動学研究会…………… 18:00～19:30

- 議題：1. 平成24年度研究会の開催について
2. 国内外の研究動向に関する情報交換
3. その他

産業精神衛生研究会..... 17:30～19:00

テーマ：若年労働者のメンタルヘルス

内 容：多くの職場で20～30歳代のメンタルヘルス不調が増加しており、その支援に腐心している声もよく聞かれる。今回は、2名の演者から、最近の研究成果と実践報告について話題提供をいただき、若年労働者のメンタルヘルス不調の特徴と対応のポイント・留意点を議論したい。

代表世話人：廣 尚典 (産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学)

■ 第3会場 (4号館1階 白鳥ホール南)

産業心理技術研究会..... 17:30～19:00

テーマ：タッピングタッチ：産業・職場におけるシンプルケア
～ストレスケア、コミュニケーション、関係性の改善～

演 者：中川一郎氏 (ホリスティック心理教育研究所 臨床心理学者)

ホリスティック (統合的・全人的) アプローチを理解し、幅広い応用が可能なヒューマンケアの手法・タッピングタッチを体験学習していただきます。

東日本大震災をうけて、被災者支援の実践や心のケアとしての利用についてもお伝えします。

世話人：森崎美奈子、松井 知子

■ 第4会場 (3号館3階 国際会議室)

産業保健マーケティング研究会..... 17:30～19:30

テーマ：産業保健マーケティングの軌跡と展望

2002年の『産業保健マーケティング』出版から今年で10年が経ちました。振り返ってみると、過重労働対策や特定健診・保健指導など、産業保健そのものに大きな変化を与える出来事の多かった10年でもありました。

その翌年の2003年に発足した本研究会では、産業保健における顧客のニーズを踏まえた活動の考え方と進め方について、議論を重ねてきました。

今回は、出版10周年という節目を迎えて、本研究会の初代代表世話人であり、当時をよく知る古木勝也先生を交えて、産業保健マーケティングが生まれてからこれまでの軌跡を率直に振り返りながら、今後の展望について考えていきます。

産業栄養研究会	17:30～19:00
----------------------	--------------------

テーマ：産業保健現場で活躍する管理栄養士の育成向上を目指して

座長：安達 修一（相模女子大学）

柳澤 裕之（東京慈恵会医科大学）

働く人の健康管理として生活習慣病予防が注目されるようになって久しいが、その傾向は健康増進法と健康日本21のスタートにより加速され、最近では、特定健診・特定保健指導として取り組まれている。その一端を担う管理栄養士には、食生活の面から一次・二次・三次予防を推進し、生活習慣病予防に貢献することが期待されている。産業保健の現場で産業保健スタッフの一員として活躍するために、あるいは産業給食を担う立場から、管理栄養士の育成向上が求められる。本年1～2月に、全国の管理栄養士養成施設を対象に、産業保健に関する教育の実態に関するアンケート調査を実施した。本自由集会では、アンケート調査の集計結果を報告すると共に、それらを踏まえた今後の育成のあり方についてディスカッションしたい。

代替医療と産業保健研究会	17:30～19:00
---------------------------	--------------------

テーマ：作業関連性疾患の予防と新経絡治療について

－腰痛の新経絡治療を中心に－

座長：山本 真二（日新製鋼（株）周南製鋼診療所）

演者：宇土 博（広島文教女子大学）

中谷 敦（（株）日立製作所水戸健康管理センタ）

茂原 仁（上富田クリニック）

三橋 徹（ひまわり医療生活協同組合）

医療に於ける世界の潮流は、慢性疾患に対する西洋医学の限界を補う代替医療が注目され西洋医学との統合医療へ向かっており、産業保健もその潮流の中にある。この研究会の目的は、代表的な代替医療の新経絡治療を産業保健へ導入し、その活動を広く普及させ産業医学確立の一助となることである。例えば、産業保健の重要な課題である腰痛等の作業関連疾患に対して産業現場では鎮痛剤、湿布、物療機器等しかなく有効な手段がなかった。そこで、2010年福井の日本産業衛生学会で、新経絡治療を産業保健の新しい疼痛治療法として導入することを提案した。新経絡治療は、経絡というツボのネットワークを刺激し、全身のエネルギーの流れを調整することで、疼痛、免疫異常、自律神経障害、不眠、うつ状態等の治療を行う。低コスト・低副作用で、鎮痛効果や治療効果が高く、プライマリケアとしての産業保健に適した治療法である。新経絡治療は、押し棒を使って経絡を刺激するため、感染のリスクがなく、設備が不要で産業現場で容易に使用でき、産業医に限らず医師の指示のもとに産業保健スタッフも実践可能である。今回は、作業関連性腰痛の新経絡治療の治療事例の紹介と腰痛治療の実践セミナーを行う。

職域における睡眠障害研究会..... 17:30～19:00

産業現場における睡眠障害への取組みについての課題と解決 - 産業医と睡眠専門医の連携を中心に -

座 長：谷川 武 (愛媛大学)
津田 徹 (霧ヶ丘つだ病院)

演 者：新島 邦行 (磐田メイツ睡眠障害治療クリニック)
小池 茂文 (豊橋メイツ睡眠障害治療クリニック)

現在、産業現場では、睡眠時無呼吸症候群をはじめとして睡眠障害への対応が急務とされている。特に産業医、産業看護職の協力による対象者の検出と、その後の睡眠専門医での診断・治療・フォローアップの連携が必須である。この点を今回の研究会のメインテーマとして討議したい。

代表世話人：谷川 武 (愛媛大学大学院医学系研究科公衆衛生・健康医学 教授)

大学・研究機関における安全衛生管理研究会..... 17:30～19:00

演 者：色川 俊也 (東北大学環境・安全推進センター)
山本 仁 (大阪大学安全衛生管理部)

平成23年3月11日の東日本大震災では、非常に多くの方の尊い命が奪われ、日常生活には様々な影響が及びました。震災の犠牲となられた方に対し、ここに哀悼の意を表します。この未曾有の震災の経験から得られた教訓は、実に多くのことがあります。大学・研究機関における安全衛生管理のあり方についても、例外ではありません。震災から1年を経過した今、災害への備え、研究の継続性、危険・有害要因の管理等の観点から、大学・研究機関における安全衛生管理のあり方について、あらためて検討したいと考えます。色川俊也先生には、東北大学における震災の経験と震災後1年の安全衛生管理活動についてご報告頂きます。山本仁先生には、大学・研究機関の実験室における安全について、如何に災害に備え、研究成果を守るか、ご報告頂きます。

世話人：塚原 照臣 (信州大学医学部衛生学公衆衛生学講座)

ICOH アクティブメンバーの会 12:00～13:00

国際産業保健学会（International Commission on Occupational Health, ICOH）会員の方及びICOHにご興味をお持ちの方はお越しく下さい。

- 1) 第30回総会（Cancun, Mexico, 2012）の報告
- 2) 第31回総会（Seoul, Korea, 2015）に関する連絡
- 3) ICOH科学分科会に関する情報
- 4) ICOH会員募集ほか

職域身体活動研究会 17:30～19:00

テーマ：職域におけるコホート研究（追跡研究）の概要と実際
～身体活動とメンタルヘルスに関する研究の紹介～

座 長：武田 繁夫（三菱化学株式会社）

演 者：甲斐 裕子（（財）明治安田厚生事業団 体力医学研究所 副主任研究員）

内 容：

厚生労働省のエクササイズガイドの作成には職域で実施された「コホート研究（追跡研究）」がエビデンスとして採用されています。この「コホート研究」について、その概要を紹介していただくとともに、甲斐先生らのグループが実施している「オフィスワーカーの身体活動と抑うつに関する研究」を例に、コホート研究を計画する際に注意する点や実施にあたってのポイントを紹介していただきます。

世話人：武田 繁夫、池田 初恵、三嘴 明、武藤 孝司、須藤美智子、木下 藤寿、熊谷 秋三、
甲斐 裕子、澤田 亨（代表）

産業疲労研究会 第76回定例研究会 17:30～19:00

座 長：岩根 幹能（和歌山健康センター）

内 容：

1. 総会
2. シンポジウム：「近年における産業疲労の概念を再考する」
(1) 産業疲労を規定する概念、(2) 疲労の調査法について、3人のシンポジストにご発表いただく。

シンポジスト：佐々木 司（労働科学研究所）

北原 照代（滋賀医科大学予防医学教室）

松元 俊（労働科学研究所）

担当世話人：岩根 幹能（和歌山健康センター）

交通における安全と産業衛生の研究会…………… 17:30～19:00

テーマ：企業と麻薬、違法薬物等の管理

座長：福本 正勝 ((財) 航空医学研究センター 検査・証明部長)

演者：掛井 真純 ((株) 三菱化学メディエンス 専属産業医)

今回の研究会では課題講演をメインテーマに、その内容に関連して会場の皆様と全体でディスカッションを予定しています。学会総会に参加された多くの産業保健職の皆様にも、お立ち寄りいただけますようお願い申し上げます。

事務局：JR東日本健康推進センター 医学適性科

〒140-0005 東京都品川区広町2-1-19

TEL 03-3771-7573 (産業医室) FAX 03-3771-7630

事務局長：笠原 悦夫 e-mail：e-kasahara@jreast.co.jp

非正規雇用研究会…………… 17:30～19:00

テーマ：福島原子力発電所事故と非正規雇用者の健康

発表者：

1. 講演「福島原発事故収束作業への産業医科大学の取り組み」

立石清一郎 (産業医科大学 産業医実務研修センター)

福島原発の復旧作業では、発注者である東京電力と、元請およびその多くの協力会社による複雑な企業間構造が存在する。産業医科大学は国からの要請を受けて医師の派遣を開始した。当初の期待は作業員に対する救急対応や医務室対応であったが、産業保健上のニーズ変化を予想し、活動を続けながらニーズを掘り起こしていった。発注者である東京電力は、法令上、協力会社の労働者に対する健康管理義務を負わないながらも、社会的・道義的責任の観点から、産業保健的分野では放射線管理に加えて①熱中症予防、②感染症予防、③新規入構時の健康チェック等を実施することとなり、産業医大による技術的・人的な支援を得て対応した。福島原発内での健康管理意識の高まりは東京電力のみならず、おおくの協力企業において危機感を持った対応を行うまでになった。これまでの活動と今後の課題について報告を行う。

2. 情報交換会

作業関連性運動器障害研究会..... 17:30～19:00

テーマ：作業関連性筋骨格系障害研究に関する日韓交流

内 容：

- 1 ミニ講演「最近の韓国における作業関連性運動器障害」
任 祥赫 (韓国 ユンジン労働衛生研究所 所長)
- 2 第2回作業関連性筋骨格系障害日韓共同シンポジウムについて

世話人：岩切 一幸、飯田 忠行、宇土 博、太田 充彦、大西 明宏、佐藤 修二、中石 仁、
中田 実、中谷 敦、舟橋 敦、三橋 徹

代表世話人：埤田 和史

振動障害研究会..... 17:30～19:00

演 者：

- 1 ワーキンググループからの報告
 - 1-1 全身振動許容基準改定案検討WG
西山 勝夫 (滋賀医大)
 - 1-2 振動障害発生実態調査WG
石竹 達也 (久留米大学)
 - 1-3 振動障害の新しい診断体系検討WG
原田 規章 (山口大学)
- 2 国内外の動向
 - 1-1 第12回手腕振動学会報告 (Ottawa, 2011.6)
Hossain Md Mahbub (山口大学)
 - 1-2 ISOにおける冷水浸漬検査法検討状況
宮下 和久 (和歌山医大)
- 3 産衛学会全身振動許容基準改定案の検討経過について
- 4 振動障害の新しい診断体系ガイドライン案の検討
- 5 その他

世話人：原田 規章 (山口大学大学院医学系研究科環境保健医学分野)

第13回医療従事者のための産業保健研究会 17:30～19:00

テーマ：医療機関における産業保健体制作りを考える

座長：吉川 徹 (労研)

和田 耕治 (北里大学)

演者：「国立病院機構における産業保健活動の現況」

吉田 和朗 (長崎川棚医療センター産業医)

内容：本邦の医療機関は多くの医療従事者が在職する事業所であるにもかかわらず、組織内での産業保健活動に対する認識は他業種と比べて必ずしも充分ではなく、また活動水準も特に高いとは言えない現実があります。職場に多くのハザードをかかえリスク管理が重要な医療現場にとって、十分な産業保健体制が必要なことはいうまでもありません。今回の研究会では、最初に国立病院機構関連病院への調査結果をもとに医療機関における活動の現状と問題点について報告します。その後、参加者間で総合討議を行い、課題の洗い出し、しっかりとした体制を作っていくために必要な提言をまとめる討議を行いたいと思います。(企画担当：世話人、吉田和郎)

世話人：織田 進、堤 明純、東 敏昭、吉川 徹 (代表)、吉田 和朗、和田 耕治

VDT作業研究会 17:30～19:00

テーマ：肩こりの原因としてのTCH, その対策

座長：落合 孝 (東京工業大学)

演者：木野 孔司 (東京医科歯科大学歯学部附属病院顎関節治療部准教授)

内容紹介：

顎関節症の発症と症状維持に影響する要因を探索する調査の中で、多くの患者に見られる行動要因(習癖)を見だし、この要因をTooth Contacting Habit(TCH)と名付けました。この要因の是正トレーニング法を開発し、患者に行かせたところ、顎関節症のみならず首・肩こり、緊張型頭痛の改善が見られました。このTCH発見の経緯とその是正方法について講演します。

世話人：斉藤 真、斉藤 進、高橋 誠、中石 仁、西山 勝夫、三澤 哲夫、宮尾 克、森本 一成、落合 孝則

職業性呼吸器疾患研究会..... 17:30～19:00

座長：久永 直見 (愛知教育大学)
東 敏昭 (デンソー北九州製作所)

発表者：

- 1 "韓国における「加湿器による肺障害」多発とその原因究明の経過" 5時30分～5時45分
金 良昊 (蔚山大学教授)
- 2 じん肺標準ファイルのデジタル画像 (仮) 午後5時45分～午後7時
これまでの経緯とじん肺デジタル画像 村田喜代史 (滋賀医科大学)
石綿肺のデジタル画像 芦沢 和人 (長崎大学医学部)

会議室4 (1号館3階 会議室135)

就労女性健康研究会..... 17:30～19:00

テーマ：働く女性の乳がんの治療と職業の両立支援

座長：原 美佳子 (日本たばこ産業株式会社 本社産業医)

演題・演者：

- 1 乳がんの治療 (治療の全般と入院治療後のクリニカルパスなど)
赤羽 和久 (愛知県がんセンター愛知病院 乳腺科)
- 2 リワークノートブック (NPO法人キャンサーリボンズ) の紹介
荒木 葉子 (荒木労働衛生コンサルタント事務所 所長)

内容紹介：

昨今、乳がんや子宮がん、卵巣がんに罹患する就労女性が増え、仕事と治療の両立について、相談を受けられている産業保健職の方も多数いらっしゃるのではないのでしょうか。そこで本研究会では、増加傾向にある乳がんについて、治療の全般と、入院治療後のクリニカルパスについてご講演いただき、さらに就労支援のためのリワークノートブックについてご紹介いただきます。

世話人：野原 理子 (東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学 (一) 教室)

産業疫学研究会..... 17:30～19:00

座 長：中川 秀昭（金沢医科大学公衆衛生学）
城戸 照彦（金沢大学医薬保健研究域保健学系）

演 者：

演題1 健診時メンタルチェック制度の問題点と診療支援システム活用による対処例
宮木 幸一（国立国際医療研究センター臨床疫学研究室）

2011年末に労働安全衛生法の改正案が国会に提出され、法定健診時にメンタルヘルスチェックが義務化される。我々は厚生科研費により京都の国立大学法人と企業において診療支援システムを用いた取り組みを行ってきたので、義務化の問題点とともに実効性のある対処方法の一つとして紹介したい。

演題2 統計解析ソフト「R」による基礎的な統計処理
諏訪園 靖（千葉大学環境労働衛生学）

「R」を利用したことがない初心者の方を対象とし、統計処理についてWindows版で実習します。ノートPCをお持ち頂ければその場で実習が可能ですが、「R」の導入など事前に準備が必要ですので、研究会事務局能川nogawa@chiba-u.jpまでメールにてご連絡ください。